

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院外来診療医担当表

	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
総合診療	2診	総合診療 廣西			総合診療 廣西		総合診療 廣西		総合診療(循環器) 羽野	
	3診	糖尿外来 稲垣(慶)		総合診療(循環器) 羽野	泌尿器外来 稲垣(武) (2-4週)	肝臓 佐藤	糖尿外来 稲垣(慶)		呼吸器 田中	
	4診		皮膚科 (1週) 神人 (3-4週) 坂田	脳神経内科 中西		循環器 山本		リウマチ膠原病 応援医師 (第2週)	循環器 小林	
	新患5診	田中		岸本		岸本		江守		江守
	外科診					脳神経内科 中西		櫻井		
脊椎ケアセンター	6診	脳神経外科 大岩		整形外科 米良(好)		脳神経外科 大岩		脳神経外科 大岩	脳神経外科 上野 【第1週】	脳神経外科 大岩
	7診	センター長 脊椎 川上		センター長 脊椎 川上		整形外科 中川		整形外科 米良(好)	センター長 脊椎 川上	
	8診	整形外科 籠谷		整形外科 寺口		骨粗鬆症外来 寺口		整形外科 籠谷	整形外科 中川	
眼科	泉谷	安武	石川	雑賀 岡田 【第1週】 【第3週】 (眼科新患も含む)	安武	子ども外来 泉谷		泉谷	石川	術前外来
			二出川		黄斑外来 石川		二出川 【第2週を除く】	安武	黄斑外来 石川	
小児科	青柳		樋口		青柳		青柳		青柳	
リハビリテーション科	隅谷		隅谷		隅谷		隅谷		隅谷	
認知症疾患医療センター		大岩		廣西			廣西			中西

診察受付/月曜~金曜:午前8時45分~11時30分 ※第1週の水曜日午後は、加藤医師が救急対応 令和元年10月1日現在

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院通信



あじさい



vol.30
2019.秋号



紀北分院から見える風景

「かるて師匠の健康高座」

副分院長・内科教授 廣西昌也

今回より落語が趣味の大川亭 可流亭(おおかわてい かるて) 医師と、医療に興味のある高校生、北 紀子(きた のりこ)さんの会話を通して、医療に関する話題を分かりやすく説明していきます。

紀子: 実は私の父が高血圧なのですが、病院嫌いで全然医者にかかってくれないんです。
可流亭: 紀子ちゃんも高血圧が悪いことを知っているようだね。でもなぜ高血圧がいけないのか知ってる?
紀子: 高血圧って血の圧が高いってことですよね。紀の川も台風のあとは川岸の土が流されたりしますよね。血の流れが強いと血管が傷んでしまうんじゃないですか。
可流亭: そのとおり。血圧が高いとね、血管が硬くなったり詰まったりして、いわゆる動脈硬化が進んでしまうんだよ。
紀子: 動脈が硬くなるのか…。おばあちゃんも血圧が高く、脳卒中で亡くなったの。
可流亭: 脳卒中や心筋梗塞、心不全などは代表的な動脈硬化の病気だね。足の血管が詰まって歩けなくなったり、腎臓が悪くなって腎不全になる場合もあるんだよ。
紀子: どの位の血圧を高血圧と言うんですか?
可流亭: 上の血圧が140以上、下の血圧が90以上だよ。でも家で測ると低めに出るから、家庭血圧は上が135以上、下が85以上を基準にしてる。でもより合併症を減らすために、治療目標としては130/80を目指す場合も多いんだよ。
紀子: お父さんが脳卒中や心筋梗塞になったら嫌だな。今度ぜひ紀北分院に受診してもらおうのでよろしくお願ひしますね。



【お知らせ】

- 令和元年10月より、内科に岸本祥平助教、田中将規学内助教、江守誠司学内助教が、眼科に安武正治郎学内助教が着任しました。
- 令和元年9月末で、内科の玉置哲也学内助教が退職し、内科の藤田澄吾子助教、南方大和学内助教と、眼科の永井達也学内助教が和歌山県立医科大学本院勤務になりました。
- 次回の紀北分院通信「あじさい」冬号は1月発行です。

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 分院長 川上 守

〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺219 TEL0736-22-0066(代) FAX0736-22-2579
 ホームページアドレス <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/bun-in/index.html>
 2019年10月発行



理念

私たちは地域に密着した医療が実践できる質の高い医療人を育成し、安全で安心いただける医療を提供して、地域の保健医療の発展に貢献します。

基本方針

- 1 わかりやすい丁寧な説明と同意のもとに、安全で心こもった、患者さんや家族に信頼される医療を行います。
- 2 豊かな人間性と専門的な知識と技術を備えた医療人を育成します。
- 3 地域に密着し、地域のニーズに応える医療機関を目指します。
- 4 近代的で最新の知識・技術を活用した医療を行い、地域の中核的医療機関としての使命を果たします。
- 5 地域の保健・医療・介護・福祉施設や行政と連携し、地域の人々の健康作りにも貢献します。


患者さんの権利

当院では、受診される皆様、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として、尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意志に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを守られる権利があります。

掲載内容

- ・骨粗鬆症について
- ・効かない薬が増えている!!
- ・ふれあい看護体験を実施しました
- ・ドクターヘリ用「場外離着陸場(ヘリポート)」の運用を開始しました
- ・外来診療医担当表
- ・かるて師匠の健康高座



日本医療機能評価機構 認定番号 JC2323号

■ 骨粗鬆症について

整形外科 講師 寺口真年

骨粗鬆症(こつそしょうしょう)とは、長年の生活習慣などにより骨の量が減ってスカスカになり、骨折を起こしやすくなっている状態、若しくは骨折を起こしてしまった状態のことをいいます。実は私たちの骨は18歳ごろをピークに、年を取るごとに少しずつ減っていきますので骨量の減少それ自体は生理的現象ともいえます。現在、骨粗鬆症患者はわが国では1280万人もいます。多くは女性であり閉経とともに急激に骨粗鬆症のリスクは上昇していきます。

また人口の高齢化とともにその数は年々増加しております。高齢社会では、お年寄りの健康寿命(健康上の問題がない状態で日常生活を送れる期間のこと)が重要です。実は平均寿命と健康寿命の間には、男性で約9年、女性で約13年の差があります。長生きをしても、寝たきりに近い状態が数年間もあるということです。元氣にからだを動かし、生き生きとした生活を送ることを誰しも望みます。その原因の一つとして、骨粗鬆症による骨折があります。そのためには骨粗鬆症にならないようにすることが大切になってきます。

◆ 検査および診断について

骨粗鬆症は骨の量を測ることが検査の中心です。骨密度測定ともいわれます。当院では最新の測定機器(DXA法)で、腰と大腿部でいずれも苦痛を伴わず、短時間で安全に検査できます。このほか血液検査や尿検査などによってより正確な診断を付けることが可能となっております。そして脆弱性骨折という軽微な外力によって発生した背骨の圧迫骨折や大腿骨頸部骨折の既往があればその時点で骨粗鬆症という診断になります。しかし、そのような脆弱性骨折が無くてもDXA法にて骨密度が若いとき(20~44歳)の平均骨量の20%減少までは正常、20~30%を骨量減少、30%以上の減少を骨粗鬆症と診断します。

◆ 薬物治療について

まず老化によって減ってしまった骨を若いころのように戻す薬はありません。しかし、最近では早期治療により、骨粗鬆症による骨折がかなり防げるようになりました。現在使われている薬は、骨の吸収(骨が溶ける)を抑える薬、骨の形成(骨を作る)を助ける薬、吸収と形成の骨代謝を調節する薬の三つに大別できます。まずはしっかりと骨密度検査を行い、診断そして治療を受けることが大事です。

◆ 最新の背骨の圧迫骨折の治療方法について

従来は背骨の圧迫骨折に対してコルセットやギプスを装着し、ベッドの上で安静にしておりました。当院では早期にリハビリを行うことにより、筋力の低下を防ぎ早期に自宅に退院できるようにしておりましたが、痛みが遷延することもありました。

近年、BKP(Balloon KyphoPlasty)法が日本にも導入され、背骨の圧迫骨折によって潰れてしまった椎体を、できる限り骨折前の形に近づけ椎体を安定させ、痛みを和らげる治療法です。BKP治療には、バルーン(風船)状の手術器具や医療用の充填剤(骨セメント)を使用します。BKP治療の特長は、短時間の手術(約1時間以内)で、早期に痛みの軽減が行えること、生活の質の向上が期待できることです。BKP治療は、脊椎外科の専門知識を持った医師が特定のトレーニングを修了し、当院のような必要な設備の整った施設で実施することが規定されています。かつらぎ地区では当院のみです。

◆ 骨粗鬆症リエゾンチームの立ち上げについて

紀北分院では令和元年5月に骨粗鬆症リエゾンチームを立ち上げ、多職種で骨粗鬆症による骨折を防ぎ、寝たきりにならないように予防と治療を進めていきたいと思っております。リエゾンとは連携との意味で、当院だけでなく地域のかかりつけの先生、薬局そして地域社会の皆様と骨粗鬆症に関する認識を深めたいと思っております。

◆ 骨粗鬆症外来を設置致しました!!

毎週水曜の午前中に骨粗鬆症外来を設置致しました。最新のDXA法による骨密度検査を受けていただき、治療の開始のタイミングや内容などをきめ細やかに説明いたします。かかりつけの先生より御紹介いただけますと助かります。



■ 効かない薬が増えている!!

感染管理認定看護師 田中治美

「薬剤耐性(AMR)」を知っていますか?「薬剤耐性」とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬(抗生物質)が効かなくなることです。抗菌薬が効かない菌(薬剤耐性菌)が増えると、これまで抗菌薬を飲めば治っていた感染症が治りにくくなったり、他の病気の治療に影響したりします。この薬剤耐性は、世界的な問題になっており、我が国では、薬剤耐性(AMR)対策アクションプランが策定され、具体的な取り組みが行なわれています。その中から、薬剤耐性を防止するために、私たちにできることを御紹介します。

「風邪をひいたら抗菌薬」というわけではありません。「風邪をひいたら病院に行って抗菌薬をもらおう…」と思われる方もいると思います。風邪の原因はウイルスです。抗菌薬は、細菌に有効な薬であるため、ウイルスが原因の病気には効きません。「抗菌薬を飲んで楽になった」と感じた方もあるでしょう。でも、その時風邪が治ったのは抗菌薬のおかげではありません。あなた自身の免疫力と休息で自然に治ったのです。

処方された抗菌薬は医師の指示どおり服用してください。お薬は、あなたの年齢、体格などを考慮して、調整されているのです。処方された飲み方を守ることは、あなたの病気を確実に治すため、抗菌薬による副作用を減らすため、とても重要なことです。お薬を飲み始めて、症状が良くなってきても、原因となった細菌を完全に退治するためには、処方された期間きちんと飲むことが大切です。同じ理由で処方された抗菌薬をとっておいで後で飲んだり、他の人に処方された抗菌薬をもらって飲んだりしてはいけません。そもそも効果がないかもしれないし、思わぬ副作用に苦しめられることもあります。

感染症にかからないためには予防が大切です。手を洗うことで、手についた病原体があなたのからだに侵入するのを防ぐだけでなく、周りの人に感染を拡げることも防げるのです。手洗いは、日々の生活の中でできる、きわめて有効な感染対策です。また、感染症にはワクチンで予防できるものもありますので、接種をお勧めします。日々手洗いを心がけ、必要なワクチンはきちんと接種し、予防できる感染症にかからないように努めましょう。

今回御紹介した内容は、「薬剤耐性(AMR)情報サイト(<http://amr.ncgm.go.jp/>)」に記載されています。もっと詳しく知りたい方は、ぜひご覧ください。ひとりでも多くの人に知ってもらって、できることから始めるのが大切です。

ふれあい看護体験を実施しました

7月31日、和歌山県看護協会主催の「ふれあい看護体験」を実施しました。ふれあい看護体験は、看護の仕事に興味のある高校生以上を対象として毎年行っており、今年は2名の受け入れを行いました。



お知らせ

●ドクターヘリ用『場外離着陸場(ヘリポート)』の運用を開始しました●

紀北分院内の東側敷地(芝生地)を、ドクターヘリ運航会社の現地調査及び伊都消防組合の協力等により、「緊急・災害時の重傷病者」又は「入院患者の急変時」の和歌山県立医科大学附属病院への緊急搬送のヘリポートとして運用を開始しました。

近隣等の皆様には、騒音等でご迷惑等をお掛けしますが、何卒、御理解と御協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、離着陸に係る安全確保等については、伊都消防組合の協力を得て実施します。

